

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【川通小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言語の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 学習事項の定着に十分な時間を確保できていない。個に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒ 朝の活動時間に学校全体で基礎学力向上を目的とした「パワーアップタイム(仮称)」として、ドリルやワークなどに取り組む時間を設定していく。【年間40回程度】 児童の学習週間や基礎学力の定着を目的とした家庭学習環境を充実させる。【通年】 課題を自分で決めて、目標に向かって主体的に取り組む学習活動を充実させるために授業実践をして改善を図る。【月に一度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「読むこと」「書くこと」 算数「図形」「変化と関係」 <指導上の課題> 学習活動が多岐にわたるため、話し合いや振り返りなど、自分の考えをまとめる時間を十分に確保できていない	⇒ ICTを活用して、わかったことや考えたことを共有しやすくする。ペアやグループ活動において、自分の考えを根拠をもって表現できるように、話し合いの視点を示す。また、他者と自分の考えを比較し、共に協力して答えを導き出す協働的な学びを図る。【各教科各単元】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	・国語では、ほとんどの項目においても、全国の平均正答率を上回っている。語句の表し方を理解して活用する力がついてきている。一方で漢字を文の中で正しく扱えるようにしていくことが課題である。 ・算数では、平均正答率は昨年度と比べると全国平均に近づいているが、依然として下回る項目が多く、特に分数や割合についての基本的な概念の理解が課題である。 ・理科では、全国の平均正答率かそれを上回る項目もある。電流が流れる水のはたらきでは比較的知识が身に付いている。一方で理解が進んでいない事象もあり、特に磁石と金属の関係や顕微鏡の扱い方について課題が見られた。
思考・判断・表現	・国語では、相手の話の内容を捉えて自分の考えの書き表し方を工夫する趣旨の設問の正答率が高い。一方で、正答率が低い設問から、目的に応じて必要な情報や材料を分類して伝えることや、文章全体を捉えて趣旨を把握することに課題が見られる。 ・算数では、平均正答率が全国平均を上回るものが多く、昨年度より改善傾向が伺える。特に、伴って変わる二つの量の関係を見いだすことができていた。一方で、「単位分数のいくつ分」や「もとの何倍」などを表したり説明したりすることに課題が見られた。 ・理科では、平均正答率が全国の平均かそれを下回る項目がある。根拠をもとに結果を予想し表現することは比較的できていた。一方で結果から結論を導き出したり、差異点や共通点を基に新たな問題を見いだして表現したりすることに課題が見られた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・学校全体で朝時間に基礎学力向上の取り組みをしている。国語では書く力を付けるためにドリルを使ったり、語彙を広げるためにカルタを活用したりした。算数では意欲を高め、楽しみながら取り組みのようにトランプなどを活用して学年に応じた算数遊びを行っている。 ・児童アンケートや学習状況調査結果を基に、学力に関する課題を共通理解して、授業で児童が目的に応じて学習形態を選択したり、学習後何を学んだのが振り返りたりする機会を積極的に設けて授業改善を進めている。	・考えたことや学んだことを他教科でも活用できるように、教科横断的な視点を必要に応じて取り入れ授業改善を図る。【各教科・各単元】
思考・判断・表現	A	・授業において、問題に対する自分の考えや振り返りをクラウド上に記入して、グループでの伝え合いをすることで積極的に共有して、友達の考えと比較する機会を増やした。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)